

タイトル		Miss Rumphius				
著者（文・絵）		Barbara Cooney				
出版年		1982 年	出版社	Puffin Books		
翻訳版		『ルピナスさん—小さなおばあさんのお話—』掛川恭子訳、ほるぷ出版 1987 年				
総語数	1,248 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	3.3	
あらすじ						
港町に住む少女アリスは、大きな船でアメリカにやって来た職人のおじいさんと、仕事場で絵を描いたり、遠い国々のお話を聞かせてもらって一緒に過ごしました。アリスは大きくなったら遠くの国に行くこと、海辺に住むことが夢だとおじいさんに伝えます。おじいさんは「それはいいね」と言いながら、「世の中をもっと美しくするために、なにかをして欲しい」という願いをアリスに伝えるのでした。 大人になり Miss Rumphius と呼ばれるようになったアリスは、南の島、雪山、ジャングルなど、遠い国々を旅しましたが、とある国でラクダから降りるときに背中を痛め、海の近くに住むことに決めました。美しい海辺の家で過ごしていたときに、ふと、おじいさんのことばを思い出しましたが、何をしたらよいかはわかりません。再び、背中を痛め寝たきりの生活をしていた時に、なぐさめになったのは美しい花を咲かせるルピナスでした。ルピナスの種を方々に撒き始めた彼女を「頭がおかしいおばあさん」と言う人たちもいたほどです。しかし、翌春になると、あちらこちらにきれいな花が咲き、いつしか the Lupine Lady と呼ばれるようになりました。 それが私の大叔母です。「大きくなったら、遠い国に行って、その後、海辺に住むの」という私に the Lupine Lady はこう言いました。「もうひとつ、やらなければならないことがあるわ。世の中をもっと美しくするために、なにかをしなくてはね」と。						
紹介						
Barbara Cooney (1917～2000) はニューヨーク、ブルックリン生まれのイラストレーター、絵本作家です。本ホームページで紹介する <i>Ox-Cart Man</i> のイラストも担当し、コールドコット賞を受賞しました。本作 <i>Miss Rumphius</i> では、全米図書賞を受賞しています。2000 年に逝去するまで 110 冊の絵本を出版しています。 おそらくアメリカ東海岸を舞台にしたお話です。Miss Rumphius のドレスは、細い腰にヒップを大きく膨らませたバスルススタイル（鹿鳴館スタイル）ですので、19 世紀末と想像できます。港町、室内の様子、ルピナスが咲き乱れる海辺の光景が大変美しく、日本人の私たちにもどこか懐かしさを感じさせます。 この物語を読んだときに私の心に思い浮かんだのが、19 世紀のイギリス人冒険家、イ						

ザベラ・バードです。身体が弱かったバードは転地療法を機にアメリカ、カナダ、モロッコ、ペルシャ、インド、チベット、清国、日本、朝鮮、ハワイなど、世界中を旅し『日本奥地紀行』（平凡社、2000年）などの旅行記を著しました。その時代、女性がこのように未開の地を旅することは大変珍しく、数々の困難があったことが容易に想像されます。その行動力と業績から女性として英国地理学会の特別会員になりましたが、人々から敬意を受けつつも「変わった人」と思われていたのではないかと推測します。

この物語の主人公 Miss Rumphius も、バードさながら世界各地を旅しました。彼女のいわば「並外れた行動力」は遠い国への旅だけではなく、いたるところにルピナスの種を撒くという、普通の人がなかなか思いつかない、思いついたとしても実行に移さないような行いにも表れています。まわりには Crazy Lady と陰口を言われる Miss Rumphius。ルピナスの花を咲かせることは彼女にとって特段、得になることがありそうに思えませんが、好きなこと、信じることをひたむきに夢中になって続ける情熱を強く感じさせます。しかし、夢や情熱を持っていても、困難に直面した時に何があってもそれをやり通すことの難しさを知る私たちにとって、それをやり遂げた Miss Rumphius（あるいは世の中の多くの Ms/Mr. Rumphius にも）は尊敬に値する人物です。

エレガントで可憐な風貌の女性ですが、ルピナスを植え続ける姿は風に立ち向かうかのような意志の強さを感じます。その意味で、本作は端正で美しいイラストの絵本というだけではなく、ゆるぎない信念を持つ人の孤独、覚悟、強さを感じさせる一冊です。主人公が女性のため、この物語を読んだ読者の中でも、特に女の子たちは勇気を得ることができるでしょう。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【授業活用例】

- ルピナスがどのような花なのか調べる。
- Miss Rumphius の絵を紙に書き、そのまわりに彼女の人柄を表す形容詞を考えつくかぎり書き出す。さらに、彼女について想像できることをできるだけ書き出しプロファイリングする。（例）好きな色、音楽、画家、趣味、生活パターン、家族など
- Miss Rumphius が生きた時代（19世紀末～20世紀初頭）の女性を取り巻く環境を調べて発表する。当時と現在の状況を比較する。
- 各自の夢を述べる。
- おじいさんのことば、“You must do something to make the world more beautiful.”を実現するとしたら何をするのか各自で考え、その理由も併せて報告する。

関連作品・参考 URL

- 一つのことに、とりつかれたように夢中になる女性を主人公にした別の作品 *The Library by Sarah Stewart* と併せて読むのも興味深いでしょう（本 HP 絵本一覧 *The*

Library を参照)。 *The Library* の主人公 Elizabeth、本作の Miss Rumphius は共に、個人の興味を追及しながらも、人のためになることを成し遂げています。貧民外のゴミ溜に撒いた種が人々とコミュニティを変えてゆくヤングアダルト作品 *Seed Folks* by Paul Fleischman (HarperTeen, 2004) (11,453 語 YL 3.5) も関連付けて読める作品です。ジェンダーや立場の区別なく、あることに強い関心と動機を持ち、何かを成し遂げた有名無名の人々は内外に数多く存在します。そのような人々を調べてみてはどうでしょうか。各自の夢を述べる。

参考

- 『日本奥地紀行』（平凡社ライブラリー）イザベラ・バード著、平凡社、2000 年
本シリーズで中国、ハワイ、ロッキー山脈等の紀行が出版されています。講談社学術文庫からも複数の翻訳本が出版されています。また、J-WAVE 開局 25 周年記念特別番組として 2013 年に制作、放送されたラジオドラマ「イザベラバードの日本紀行」三谷幸喜（企画・構成）、松たか子（朗読）、久石譲（音楽）がインターネット上で公開されています。 <https://www.youtube.com/watch?v=0K2WylQS-w8>
- Paul Fleischman. (2004). *Seed Folks*. New York: HarperTeen. 『種まく人』片岡しのぶ（訳）あすなろ書房 1998 年

（文責：草薙優加）